広報にいかっぷ　令和6年5月号（通巻688号）

新冠にまつわるお話しを集めた

新冠百話

第六十七話
「助産婦として（語り）」（要約文）

私が助産婦として新冠に来たのは、昭和二十年になります。その前は静内に助産婦がいて、その人が新冠に来て自宅分娩に立ち会っていたということです。でも、離れているものだからお産が軽い場合は近所のおばあさんが立ち会って取り上げていたみたいです。やがてお産の立会いには資格が必要になり、私が新冠に赴任したということです。

新冠では市街地の他、節婦にも赴きました。苦労したのは場所の移動です。馬車に乗ったり、場合によっては明和や泉の方まで自転車で行くことがありました。道がひどい所は、自転車を降りて押しながら行ったものです。一日に二件のお産がある場合はとても大変です。馬車は後にタイヤになりましたが、当初は金輪という木製の車輪に金属の輪がついたものでした。昔の人は、女性でも馬に乗ることがありました。そのような女性は、お腹まわりに筋肉がついているのでお産が軽いのです。

私が出産で取り上げた子どもは、通算して三千四百人くらいです。帳面に住所や赤ん坊の名前など、必要事項を書き記します。いつの何時何分に生まれたということも書いています。時が経って学校の参観日に行っても、子どもの顔を見ればこの家のこの子だな、ということが大体わかります。逆子の赤ん坊も随分いました。それと、一晩に六人取り上げたこともありましたよ。もう、次から次という感じです。帳面に書く暇がないくらいで、ようやく終わったなと思ったら、また朝方に一人生まれてくる…。一晩中眠れなかったことがありました。

でも、中にはどんどん出血するとか、他の病気にかかっているという場合があります。また、全然痛みが来ない時は生まれるのが長引いて、母親のお腹の中で亡くなってしまっていることも経験しました。

昔の人はとても忙しいし、物が何もない時代でしょう。食べ物が少なくて大変でした。だから、母親のお乳も少なかったし、子どもの成長が良くない場合がありましたね。今の人は天国ですよ。健康センターや病院といった専門の施設が整って、安心してお産ができますもの。

お話しのような時を経て、新冠では昭和37年に助産婦が常駐する「母子健康センター」が節婦に整備された。
（昭和57年に廃止）

【消防団員募集のお知らせ】

地域の安全を守るために、一緒に行動しませんか？
消防団で地域の安心を築きましょう！
地域の安全を守るために、あなたの力が必要です！

消防署新冠支署

戸籍の窓

3月21日～4月20日までの届出分（敬称略）

●おくやみ申し上げます

武藤新之助	95歳	節婦町
水島　善美	90歳	北星町
村本　　浩	95歳	北星町
外島　　貢	97歳	若　園
前原ヤヨイ	93歳	新　和
岩崎　　忠	86歳	節婦町

●お問い合わせ先
町民生活課町民生活グループ住民係
☎0146・47・2112

火災・救急出動状況　（ ）かっこ内は前年同期

区　分	火災件数	救急件数	災害出動件数
4月	1件（0件）	18件（32件）	3件（2件）
6年1～4月	2件（2件）	94件（107件）	7件（5件）

交通事故発生状況　（ ）かっこ内は前年同期

区　分	発生件数	死　者	傷　者
4月	1件（0件）	0人（0人）	3人（0人）
6年1～4月	1件（1件）	0人（0人）	3人（1人）

人のうごき

（令和6年4月末現在）

人　口	5,082人	（前月比　－24人）
男	2,548人	（前月比　＋　4人）
女	2,534人	（前月比　－28人）
世　帯	2,820世帯	（前月比　＋　3世帯）

町公式ホームページ　町公式フェイスブック

発行・編集　新冠町企画課まちづくりグループ広報統計係
発行日　令和6年5月10日
住所　〒059-2492　北海道新冠郡新冠町字北星町3番地の2
電話　0146・47・2111　FAX　0146・47・2600